

池原 昭治の

さやまの森会本

第103話

帰ってきた夢地蔵さん



信州(長野県)の
小諸(こもろ)千曲川(ちまがわ)の
ほとり、湯の瀬温泉(ゆのせ)に
安置(あんじ)されていました、通
称(なづか)「夢地蔵さん」。その昔は南
入曽(みなしづ)の大日堂(おひのどう)に安置(あんじ)されてい
たもので、平成(へいせい)7年(1995年)ごろようや
く信州(しんしゅう)から里帰り(りかへり)したのです。



これは、ある人が、お地蔵
さんのお告げ(おごけ)により、みごと
信州(しんしゅう)の地に温泉(おんせん)を掘り当てた
のだそうです。このことが大
評判(へいばん)となり、お地蔵(ぢざう)さんは小
諸(こもろ)に居(い)ついてしまったのです。

ところが、お地蔵(ぢざう)さん、やはりふるさと
の南入曽(みなしづ)が恋(こい)しくなつたのでしよう、大勢(おほしやう)の
人(ひと)たちのお力(ちから)により、帰(かへ)つてまいりました。
すると、人々(ひとびと)の切(き)ない夢(ゆめ)や希望(きぼう)を叶(かな)えて
くれるという伝説(でんせつ)をたよりに、大勢(おほしやう)の人が
願(ねが)い掛け(かけ)に来(き)たそうです。

もちろん、夢(ゆめ)は、その人のため(ため)にない努力(なっりく)
によって叶(かな)えられるものですが、お地蔵(ぢざう)さ
んに願(ねが)いを掛(か)けることにより、手助(てすけ)けも望(のぞ)め
るでしょう。入曽(みなしづ)地区(ちく)には、荒縄(あらいな)で願(ねが)いを掛(か)
ける「化(ま)け地蔵(ぢざう)さん」もあります。庶民(しやくみん)を温(ぬ)か
く見守(みまも)るお地蔵(ぢざう)さんに、そのうち、新たな現
代(げんたい)の民話(ひんわ)が生ま(う)まれるのでしょうか。

わかるかな？

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの
中に掲載してある写真の一部を
拡大したものです。何ページの
何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正
解者の中から、抽選で5名の方に記念品を差し上げま
す。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り12月31日(当日消印有効)



【11月10日号の写真クイズの答え】

10ページの笹井豊年足踊りの
写真でした。

表紙の写真

市内3か所の老人福祉センターで、「いきいき元
気まつり」が開催されました。11月20日には、不老
荘のオープニングセレモニーで、水野保育所の園
児がかわいいリズム遊びを披露し、参加者を和ませ
てくれました。その後、一緒に輪投げなどを楽し
み、最後には、みんなで手をつないで小さな輪にな
り、ギュッとくっついて、ふれあいのひとときを
過ごしました。



埼玉県生態系保護協会狭山支部
高橋昇さん(中新田)

コミミズク (フクロウ目フクロウ科)

全長約38cm。顔が黒み
がかった褐色、目は金色
で、短い羽角を持ったフ
クロウ類です。

亜寒帯で繁殖し、日本
には冬鳥としてほぼ全国
的に渡来します。河口や
河原、埋立地、水田などの

広々とした草地で生活して、写真のように、杭や
石、小高く積まれた土の上などに止まっているのが、
もっとも頻繁(ひんぱん)に目にすることができる姿です。

夕暮れから活動を始め、葦原や草原の上を低く飛
び、主に野ねずみなどを餌としています。そして、し
ばしば数羽の群をなし、不消化物をペレット(粉碎
した餌を固形化したもの)として吐き出します。

「ウオウオウ」とか「キヤー」という鳴き声を出し、
市内では入間川の河川敷で見かけることがあります。